vinetur

インドのバルク・スコッチ輸入額、2026年4～9月に5,928万ドルへ

6カ月間の輸入額の約3分の2が7～9月に集中。英国からのバルク・スコッチ輸入は前年同期比620.7%増となった

2026年11月23日（月）



The Free Press Journalが11月21日に掲載した数字によると、インドのバルク・スコッチウイスキー輸入額は2026年4～9月に5,928万ドルに達した。同紙は、11月20日付のMoneycontrolの先行報道を情報源としている。この額は2025年の同じ6カ月間の5倍を超え、世界有数のウイスキー市場におけるブレンドや流通にとって重要な貿易の流れが急速に拡大したことを示している。

最も大きな動きが見られたのは7～9月期だった。この3カ月間の輸入額は3,683万ドルで、2025年7～9月期の511万ドルから増加した。公表された数字に基づくと、増加額は3,172万ドル、増加率は620.7%となる。

2026年4～6月期にも、すでに大幅な伸びが見られていた。この期間の輸入額は2,245万ドルだった。続く四半期と比べると、7～9月期は1,438万ドル多く、季節調整前で64.1%増となった。Moneycontrolはまた、4～6月期の輸入額が前年同期比251%増だったと報じている。

公表されたデータが対象としているのは、英国からインドに輸入されたバルク・スコッチウイスキー

という特定の貿易分野だ。ウイスキー輸入全体を示すものではなく、インドの蒸留酒市場全体を必ずしも反映するものでもない。金額は名目米ドルで示されている。報道には、輸入量（リットル）、1リットル当たりの平均価格、出荷されたスコッチの種類別内訳は含まれていなかった。

この制約は重要だ。輸入額の急増を、消費者需要の変化に直接結び付けることはできないからだ。金額の上昇は、輸入量の増加、価格上昇、製品構成の変化、あるいはこれらの要因の組み合わせを反映している可能性がある。数量データや個別の輸入申告を示す税関統計がなければ、増加分のうちインド国内の需要拡大によるものと、輸入業者や瓶詰め業者の価格設定・ブレンド方針によるものがそれぞれどの程度かを判断できない。

それでもこの貿易が注目されるのは、インドがスコッチウイスキーの主要市場だからだ。バルク輸入は、現地での瓶詰め、ブレンド、流通に使われることが多く、スコットランドの生産者とインドの買い手の商業活動を測る有用な指標となる。スコッチウイスキーは英国の一部であるスコットランドで生産されており、インドはこの分野の貿易における南アジア最大の輸入市場だ。

ムンバイで発行される英字紙The Free Press Journalは、11月21日付の更新記事で数字を紹介し、11月20日付の先行報道の情報源として、インドの金融・ビジネスニュースメディアMoneycontrolを挙げた。したがって、情報の出どころは、直接確認された税関の公式発表ではなく、報道記事である。引用された資料には、元となる税関統計表は含まれていなかった。

こうした留保はあるものの、2026年に報告された成長ペースは際立っている。比較対象となる前年同期から5倍を超える増加は、インドの輸入業者の調達パターンに大きな変化があったことを示唆する。7～9月期に3,683万ドルが集中したことからは、6カ月間にわたり購入額が均等に推移したのではなく、会計年度の進行とともに調達が加速したこともうかがえる。

四半期ごとの推移を見ると、さらに状況が分かる。4～9月期の合計が5,928万ドルで、4～6月期が2,245万ドルだったとすれば、6カ月間の輸入額の約3分の2が7～9月期に計上されたことになる。調査対象期間の第2四半期に入って、増加が一段と強まったことを示している。

一方、2025年4～9月期の比較基準となる数値が示されていないため、この6カ月間の前年同期比分析には限界がある。報道によると、2026年4～9月期の合計は前年同期の5倍を超えたが、2025年の同じ6カ月間の正確な金額は公表されていない。そのため、大きな傾向は明らかであるものの、公表された数字だけでは6カ月間の正確な増加率を独自に算出できない。

今回の増加は、インドでプレミアム蒸留酒や輸入蒸留酒への関心が続くなかで起きた。ただし、公表された数字だけでは、輸入ウイスキーのうち小売販売、ブレンド、在庫積み増しに回された量がそれぞれどの程度かは分からない。バルク取引には、将来の需要に備えた調達、在庫補充、調達先や供給契約の変更など、複数の商業戦略が反映される可能性がある。

スコットランドの生産者や英国の飲料業界全体にとって、インドの調達動向は市場規模の大きさから注視されている。インドの輸入業者にとっても、バルクのスコッチは瓶詰めからブレンデッドウイスキーの供給まで、現地のサプライチェーンの複数の段階に活用できるため、商業上重要な分野だ。インドの2つの報道機関が伝えた最新の数字は、公式の数量データや税関統計がなければ背景要因を十分に切り分けることはできないものの、2026～27会計年度前半にこの貿易分野が急速に拡大したことを示している。